



技術士だより

-(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター冬季号<第30号>(平成8年12月15日発行)

◇巻頭真言

「技術士だより」30号によせて

水上 信貞(九州支部長・センター会長)

「技術士だより」が30号を迎えた、まさに、「継続は力なり」である。

創刊号は平成元年8月5日に、土居貞夫支部長(同支部長の2期目)の時に発行された。「創刊に当たって」と題し、同氏は会員への情報提供、会員相互のコミュニケーションを深め、「技術士だより」を貴方の声の広場としたい、又前進的で明朗な雰囲、素晴らしいご意見を戴き、より充実した紙面になることを確信して、明日へ踏み出す第1歩としたい。と挨拶されている。

思い出されるのは、前年昭和63年は、(社)日本技術士会、第15回全国大会(於別府市)開催の年であった、支部長の北九州地区は勿論、原井副支部長の大分地区、総務(水上)、事業(笠木)両委員長の福岡地区の役員が中心的に、少數精鋭で準備が進められた。その際、全役員が感じた事は、会報の必要性であった。大会終了の会議で、全員一致で会報発行が決まり、実現に至ったものである。

創刊号は、紙面2枚、4頁で、内容は第24回定期総会で決定した新役員の紹介、7月の合同役員会で承認された、常設委員会の事業計画、行事予定、更に11月24日開催予定の、「創立25周年記念事業」の事業計画の報告であった。

その後、紙面も、第2号8頁、第3号12頁、第4号16頁、現在18頁、と巻を追う毎に充実されて来た。表紙のスタイルも、当初無地の味気無い「技術士だより」が第6号から、現在のブルーの色付きものとなった。

「技術士だより」は、6月、9月、12月、3月の年4回で、各15日発行となっている。3ヶ月に1巻であるが、担当の総務委員会の御苦労は大変である。各号発行と同時に、次号の編集会議を開き、巻頭言、私の提言、本部近況、支部長会議、各委員会、各部会の報告、行事予定、会員だより、会員ニュース等、その原稿依頼、編集、ワープロ、校正、発送、等々適格、敏速に処理せねばならない、特に、印刷費節減のため、創刊号から編集部員の自主的な奉仕により、「ワープロ打ち」をお願いしている。小松栄一、棚町修一、田中穣治の諸氏の献身的ご努力に対し、心から感謝申し上げるものである。

支部会員は機関紙「技術士」が送付されて来るが、センター会員は「会員名簿」のみで、何等、センターの情報は、知らされていなかった。然し、最近では、支部、センターの活動も、軌道に乗り、支部、センター主催行事、各地区、各委員会、各部会の講習会、研修会、見学会等の情報提供として、「技術士だより」が重要な使命を果たしており、支部、センター会員増強の強力な戦力となっている。関係各位のご努力に、改めて御礼を申し上げたい。

会員の皆様も、以上の事情をご覧の上、原稿依頼の節は、何卒ご協力のほどを、お願いする次第である。

前々号に提案した、会員としての努力目標を再記し、皆様の御理解、御協力をお願い申し上げたい。

1. 第24回技術士全国大会(平成9年10月15日、於福岡市)を成功させよう。
2. 会員増強の目標として、支部会員、450名、センター会員、1,000名を達成させよう。

1人でも多くの入会をお勧め下さい

私の提言

技術士の生涯教育ビジョンに向けて

齋藤 清美（活性化委員長・福岡・衛生）

(1) 技術士になぜ生涯教育が必要か

近年、若手技術士層や、広い年代間での技術交流や部会での研鑽活動に於いて、技術士登録者数の暫増傾向が観られるようになって、大変よい傾向になって来ている。

技術士は「合格してからが本番!!」と言われており、一部の若手技術士層や退職組技術士層に、技術人生道の全てを完遂させ、感激の数年以内にチャレンジ意欲を減衰させてしまう人を多く見かけます。それは技術士の人生構成期が概ね、Ⅰ期（30歳～45歳）、Ⅱ期（45歳～60歳）、Ⅲ期（60歳～75歳）に分類され、各期に取り組んだ技術世界と人脈等の遭遇環境をプラス指向で受容しなかった場合や、年代間交流に乗り遅れた層にその傾向を観察することが出来ます。即ち、立派な先輩技術士がたくさんいる技術士会に所属し、技術士間にファジィに連携する事から生涯教育も展開出来るものです。ここでは技術士会や技術士本人の活性化策についての道程を技術士の生涯教育の立場より展望してみました。

(2) 生涯教育の展開について

(社)日本技術士会の生涯教育問題研究会において、その構築が積極的に取り組まれている事は、衆知の通りです。九州支部、九州地方技術士センターにおいても、部会活動や各種研修会においてその普及や活動領域の拡大等を計っている所であり、今後共、次のような展望に基づいて、さらに強化しなければならないものと考えています。

1)支部・センター行事への積極的参加

支部の総会等への若年層の参加を強く呼びかけます。一方部会活動は、生涯教育の実践の場とも言われています。しかし、今一つ、参加率が悪く私たち技術士各人の生涯教育に対する認識が不足している現状があります。技術士こそ、理論的解決のみでなく、実践的問題解決者なのですから実地見学を欠かさないことが肝要です。

又、研修委員会での有益な体験談や各界専門家の講話は実益も多いものです。そのことに気付いていない人への入会の誘いと併せて、積極的な活動をみんなで実行しましょう。

2)地域活動に期待される生涯教育

九州各県地方には、固有の文化が構築されており、今後の技術振興策を中心とした技術的課題も多くあります。これらは、各都道府県に於いて県政や技術ビジョンとして発表されており、各地方のそれぞれの分野の技術士に期待が寄せられているのですが、その技術士集団としての対応が未だ弱い現状があります。

このような対応としての鑑みとして、九州には福岡を拠点とした(社)日本技術士会プロジェクトチームとしての「CEクラブ」や熊本を拠点とした「熊本技術センター」があります。宇宙開発やICランド開発、食糧基地としての南九州には是非、「南九州プロジェクトチーム」が切望されています。今後共、各地方での技術士間交流による技術研修会等をさらに構築強化するとともに、これらのプロジェクトチーム等の発展的な形成を強化して技術士会の発展にも寄与させながら各県政や九州全体への技術政策を提言できる「技術士会ビジョン」が切望されているのです。これらの活動は、きっと皆さんの生涯教育を具体的に導入させ、地域の町づく

(次ページにつづく)

(私の提言 つづき)

りを支援するツールに発展することでしょう。将来的には、若手技術上層と熟練した先輩技術上の協創による各地方の技術ビジョンの核を技術上会が担うことがあると思います。

3)個人の研鑽と生涯教育

技術上各人は、その研鑽の場として、各専門領域の団体研修や個別の学会、そして、本会等の研修の場に参加することによって、専門領域の探求、領域拡大を計っておられることと思います。これらの一連の生涯教育活動も、次のような三つの要素に分けて展開される事を期待しているものです。

i. 自分の専門分野以外の技術上との人的、技術的ネットワークの構築

技術上試験合格によって付与された資格には、社会全体から見れば狭い領域についての資格であり、生涯教育活動を通じた他領域技術上との協力研鑽が望まれ、複眼を保有する能力も技術上には不可欠なのです。

ii. 複数部門へのチャレンジ

技術を深める上で避けられないのが、理解する程おもしろくなる「科学の目」であり、深い研究心や洞察力の向上心です。一定の業務をより合理的かつ的確に処理するコンサルタント力は複数部門合格者が一般に身につけている企画力、行動力、対極判断力等の実務に長けた実力であり各人に許される限り、その方向へのチャレンジが望まれています。

iii. 特許・学位取得へのチャレンジ

一定期間、技術上が担当する業務は、技術開発などに繋がり易く、大体の場合、特許等の対策に取り込み易い仕事が少なくありません。従って、多くの特許を修得する活動は、実効ある生涯教育そのものに他なりません、積極的に展開して下さい。又、中・長期的に取り組んだ研究や開発業務の総体系をまとめれば学位論文になる事例も見受けられます。

このように、私たち技術上には、無限に近い形で生涯的に取り組むべき教育目標としての挑戦する場が身近にたくさんあります。これからは、技術上の貴殿が大きな人生目標をもって進めば「生きがい」や「やりがい」のある技術上の世界が大きく開けるものだと思います。

技術上的人生とは、生涯その道を極める為に、たゆまない努力と精進を積み重ねて行くことです。そこには、ほかの人には出来ない素晴らしいオリジナルな技術文化への取組人生が開けて行くものです。

一生を現役とする技術上の生涯教育システムが構築される程、技術の世界と技術上は、さらに磨かれるでしょう。

現在のように停滞している九州の1割経済の打破と活性化、国際化と世界標準規格化(ISO)、インフラ整備の促進、そして空洞化する産業化構造対策、環境問題、及び将来的な食料問題等、どれを展望してもその滑らかな解決と突破口を見出そうとするとき、今、一番、技術上のやる気『本気』が求められている時代もないのではないでしょうか。

日本技術士会近況

◎平成8年度第1回理事会報告

原井 束男 (理事)

日時 平成8年5月15日 12:00~

主たる議題

(1) 平成7年度事業報告、決算報告(案)について

6月19日開催の総会に向けて事前審／

議を行い、承認した。

(2) 平成8年度会長表彰者について

6月19日の総会に於て会長より表彰彰されるもので、九州支部より柴田秀夫氏、今村欽一氏2名の受賞が決まった。全部で34名が受賞の対象者として選ばれた。

(次ページにつづく)

(本部近況 つづき)

- (3) 役員選挙制度の改正、涉外委員会の位置付けについて
問題点も多く有るので、政策委員会を中心とし審議を重ね、再提出することになった。
- (4) 平成8年度技術上報酬(案)について
イ. 日ぎめ方式の場合1日あたり報酬額は152,000円(税込み)1.3%UP
ロ. 定額積算方式の場合の1日あたり直接人件費は、技術上(技師長)72,000円、技術上補30,500円以上でいずれもUP0%
その他報告事項があつたが特筆すべき事項はなかった。

以上

◎平成8年度第2回理事会報告

原井 束男(理事)

日時 平成8年7月17日 12:30~

主たる議題

- (1) APECにおける資格問題検討と当会の対処方針について
将来、APEC地域における技術者の相互承認の問題まで発展する可能性のある当会としても、多大な関心をよせ

ざるを得ない重要な問題である。従って当面は、国際的に日本を代表する技術者団体として、科学技術庁と緊密に連携をとりながら、国内外へのアピールを強め、積極的に、資格問題検討会議に対応していくことが必要と認識し理事会も了承した。

- (2) 技術上会の創立記念日の制定について
(社)日本技術上会は、昭和26年10月8日付で通商産業大臣より設立を認可され、本年で創立45周年を迎えることとなったので創立記念日を制定することとした。

創立記念日は10月1日とする。

報告事項

- ・定期総会(平成8.6.19)の結果報告があった。
- ・政策委員長より、役員選挙制度・涉外委員会の位置付けは引き続き検討中。
- ・財務委員長より、会費の自動引き落とし制度を下期より適用するよう検討中。
- ・事業委員長より、9年度事業を取りまとめ中。
- ・業務委員長より、プロジェクトチームの活性化に取り組んでいたのでバックアップの要請があった。

以上

◎平成8年度 第2回支部長会議

水上 信照(九州支部長)

報告

1. 日時 平成8年11月27日(水)15:00~17:30
2. 場所 「エイベック・リゾート・洞爺」
北海道、虻田郡、洞爺湖畔
3. 担当 北海道支部
4. 出席 本部: 杉田、館谷、鈴木副会長
保坂専務理事
支部: 北松(東北)、中山(北陸)
中川(中部)、森川(近畿)
泰(中四国)、水上(九州)
佐々木(北海道) 各支部長

5. 議事内容

- (1) 「支部財政に関する検討と本部に対する要望書」に関するその後の検討状況について

結論・11月20日の理事会で、平成9年度から、支部財政支援として、現行の支部会員会費の1/3に加え、準会員の会費の1/3を支部

の管理運営に充てるため返還することとする。

(2) 役員選挙制度の改正について

結論・細則第36条、定款第17条の選挙は、各支部及び部会より推薦され、かつ所属する支部又は部会の会員10名の推薦を受けた候補者について行う。ただし1人の候補者推薦人が推薦できる理事及び監事の候補者の数は1名とする。

(3) 報告 九州支部提出の過去の支部長会議分について報告した。

- ① 建設コンサルタント登録の追加部門について
平成8年11月13日に官報(建設省告示第2072号)に告示された。

追加された部門:

10. 水産土木部門
20. 電気、電子部門

(次ページにつづく)

(本部近況 つづき)

(4)コメント

建設省登録の建設コンサルタント登録に、電気、電子部門が追加されたので有資格者は積極的に活用されたい。

(5)報告

②-1 技術士第二次試験準備のための日当支給について。
平成8年度から支給された。／

②-2 技術士登録申請の様式改正について

「当社」を「当(社、所、会、センター、大学、省、庁、公団、道、都、府、県、市)」に改正することになった。

(6)次回予定(第3回)

担当: 北陸支部

日時: 平成9年3月、日時未定

場所: 新潟県

技術士会九州支部・九州地方技術士センター

行事・会合などの報告

平成8年度事業

第1回科学技術セミナー開催報告

甲斐 忠義(支部事業委員長)

去る9月25日(水)福岡サンパレスにおいて平成8年度事業第1回科学技術セミナーを開催致しました。(参加者85名)

昭和63年から九州支部活動の一環として取り組んできた官公庁職員と技術士との合同セミナーが九州各県技術士会の持ち回りで一巡したのを受け本年度から産官学の方々に加え一般の聴講希望者も参加していただき広く技術士活動のPR・成果報告の場として開催したものです。

今回のセミナーでは、全世界におけるエネルギー需要の増大と資源消費から今後地球規模で沙漠化の進行・酸性雨・温暖化・オゾン層破壊などの現象が生じると予測されており、今後早急に取り組むべき課題が山積していることからテーマを「我が国のエネルギー問題と技術士の役割」としました。セミナーでは世界及び我が国の資源・エネルギー利用など理解するため、通産省九州通産局商工部技術振興課長の村上英治氏から「最近のエネルギー情勢と今後のエネルギー政策」についてと題して基調講演をしていただきました。

続くパネルディスカッションでは、第1部をクリーンエネルギー、第2部を省エネルギーとしてその取り組みの現状を報告していただきました。コーディネーターを(財)日本立地センター調査部次長、秋元耕一郎氏、サブコーディネーターを九州支部総務委員長の重富秀雄氏にお願いしました。資料集に掲載しています各パネラーの論文について問い合わせなどございましたら下記宛お願いします。

記

①清水富夫「太陽エネルギーの開発」

三菱長崎機工(株) 機械事業部エンジニアリング部次長 0958-71-2932 技術士(機械)

(次ページにつづく)

- (支部・センター行事報告つづき)
- ②神田昭夫「風力エネルギーの開発」
三菱電機(株)長崎製作所業務部参事 0958-64-2161 技術士(電気・電子)
- ③春口久上「水力・地熱エネルギーの開発」
(株)柿原組取締役技術部長 092-531-0568 技術士(建設)
- ④三原道生「海水の利用:未利用エネルギーとシーサイドももち地区熱供給システム」
九州電力(株)営業部営業開発室都市システム担当 副長 092-761-3031
- ⑤佐竹芳郎「道路交通の省エネルギー対策」
建設省九州地方建設局福岡国道工事事務所長 092-681-4731 技術士(建設)
- ⑥梁木英寿「下水再生水の再利用」
福岡市総務局水資源対策室担当係長 092-711-4039 技術士(建設・水道)
- ⑦五島一成「農業と省エネルギー」
前佐世保工専・物質工学教授 白宅 092-595-2955 技術士(農業)
- ⑧森将彦「建設副産物リサイクルの現状と課題」
建設省九州地方建設局企画部技術調整管理官 092-471-6331 技術士(建設)

最後に合同セミナー資料集の作成にあたり広告提供していただいた会員所属の各社に対して厚くお礼を申し上げます。
以上

平成8年度技術士第二次試験筆記試験合格者

半成8年11月6日発表	福岡会場
機械本田主助	建設中島城二
〃 沼尻健次	建設梶原文男
〃 大槻繁	建設古川直樹
〃 鹿瀬平山賢治	建設井上久誉
〃 園田敏勝	建設幡東孝則
〃 蟹江和彦	建設清水定光
化学小柳嗣雄	建設山崎宏教
〃 阿部隆一	建設辻治生
金属大森隆之	建設古関政秀
建設岩上憲一	建設清水洋二
〃 坂の井秀輝	建設常松修一
〃 筑瀬明弘	建設吉岡晴之
〃 篠原覚二	建設阿部隆一
〃 渡邊輝康	建設谷口政博
〃 三浦哲彦	建設常松修一
〃 渡邊文利	建設松石忠俊
〃 住田賢二	建設眞崎洋三
〃 上村俊英	建設菊池良介
	建設宮内浩典
	建設坂の井秀輝
	建設和多田康男
	建設高山和典
	建設篠原覚二
	建設渡邊輝康
	建設三浦哲彦
	建設渡邊文利
	建設住田賢二
	建設上村俊英

建設中島忍	建設高柳朝一	水道北野正直
〃 武田悦男	〃 塩満利昭	〃 松本雄介
〃 杉本正二	〃 杉本勝義	〃 稗田清信
〃 原田政太	〃 三好哲也	〃 岩田浩一
〃 原田昌宏	〃 多久正太	〃 川上祥史
〃 稲永豊	〃 戸次真一	〃 當間久夫
〃 谷雄平	〃 原田正則	〃 友納敏
〃 石原俊郎	〃 秋月敏政	〃 田原徳生
〃 宮副一之	〃 松本章	〃 飯田徹男
〃 江中正宏	〃 藤本哲明	〃 石尾暢弥
〃 千々岩敏弼	〃 入江康雄	〃 大西正人
〃 中野道男	〃 渡辺広明	〃 小笹慶二
〃 緒方良一	〃 児玉伸彦	〃 木下克寿
〃 中垣光弘	〃 景山辰夫	〃 西村賢一
〃 高木勇	〃 服部誠二郎	〃 山下富大
〃 斎藤頼敏	〃 皆川和明	〃 植原啓二
〃 浜田裕文	〃 斎藤孝	〃 農業山下和博
〃 橋詰順一	〃 川口芳人	〃 小路順一
〃 力丸泰英	〃 中島義明	〃 岩田博文
〃 中島良一	〃 原千妙子	〃 山田富雄

(支部・センター行事報告つづき)

農業丸野律志郎 堀野江藤賢治

〃 富宿一隆 〃 林 健次

〃 林 譲 〃 豊村靖彦

〃 田ノ上春雄 〃 吉川智彦

〃 山口孝一 〃 糸山 隆

〃 井崎孝行 〃 篠田良明

〃 楠田直稔 〃 河内義文

〃 田渕博文 環境中田憲一

林業坂梨京一 〃 斎藤信弘

〃 鐘ヶ江利常

水産森 一夫

〃 大岡達也

受験申込者 2,060名

受験者数 1,272名

筆記試験合格者数

建設 85名

建設以外 50名

計 135名



第23回技術士全国大会に参加して

重富 秀雄（総務委員長・福岡・経営工学）

第45周年記念技術士全国大会記念大会が、横浜市ランドマークタワーで開催された。

九州支部から支部長以下23名が参加し、来年度九州大会への参加を呼びかけた。

横浜市の“みなとみらい”の中にそびえ立つ、ランドマークタワー、近代建築の粋を誇る高層ビルで行われた。全国大会は参加者も600名を超す盛大な大会であった。

今年のテーマは“新たなパラダイム”。分科会も特別分科会を含め、6分科会で真剣な討議がそれぞれの分科会で行われた。

記念式典後の特別講演では、柳原良平先生の“世界の港、船さまざま”と題した、世界各国の港や、豪華クルーザーの見聞記を1時間半にわたり聞かせていただいた。特に印象的だったのは、講演に先立って演奏された“横浜グリークラブ”的素晴らしいコーラスが、男声合唱団の力強いハーモニーで聴衆を魅了した。

又、記念パーティで演奏された、女性ピアノトリオと、ソプラノ加藤江美さんの澄みきった歌声も盛大な拍手でアンコールまで聞くことができた。パーティのフィナーレの5分前に“来年は博多に来んしゃい「飛翔21」97.10.15.”の宣伝プラカードで、来年の全国大会をPRし、“是非九州へお出でください”と会場の皆さんに呼びかけ、記念パーティは終了した。

第26回日韓技術士合同会議に参加して

水上 信貞（九州支部長・センター会長）

第26回日韓技術士合同会議が、去る11月14日、島根県松江市で開催された。出席者総数217人で、内訳は韓国側55人（婦人同伴者20人）日本側162人（本部、他支部48人、主催支部114人、内婦人同伴者20人）、九州支部から水上、江畑、古川の3氏であった。

当該会議は、昭和46年日韓技術士会事務担当者レベルの覚書交換により、両国技術上の懇親を深め、情報の交流を促進する目的で日韓技術士会議の開催が合意され、同年10月第1回日韓技術士会議がソウル特別市で開催された。

以来、東京とソウルで交互に毎年開催され、平成3年は韓国特別市永登浦で開催され、4年新潟市、5年韓国大田特別市、6年札幌市、平成7年韓国慶州市で開催された。

日韓両国の歴史的関係の深い都市で開催されるようになり文化的交流も図られ、会議も技術面はもちろん、両国技術士が協力して行われるようなテーマを設け、セミナー形式が取り入れられた。

また、平成7年第25回会議からポスター・セッションが加えられた。

この会議に提案されるテーマについての検討、内容の審議は、(社)日本技術士会の日韓産業構造調査研究委員会が担当し、国内開催時には実行委員会の中核として活動している。

九州支部の参加は、平成5年の第23回、平成7年の第25回からである。

今回の会議では、宮崎茂一会長、成楽正韓国側会長の挨拶のあと、澄田島根県知事の歓迎の言葉があり、合同シンポジウムとして、両国の産業構造に関する調査研究の基調報告が、日本側松平孝、韓国側李康鎬、両委員長からあった。

午後は、分科会討論会に移り、第1分科会は国際交流、第2分科会は地域計画と環境、第3分科会は品質と安全管理、第4分科会は食品問題、第5分科会は技術者の資格問題に分かれ、各専門の技術士がグループ化して研究発表と討論を行った。分科会は17時30分まで続けられ、会場を「くにびきメッセ」より「ホテル一畠」に移し、18時より懇親会が開かれた。

冒頭来賓の松江市長の歓迎の挨拶の後、恒例の「鏡割り」行事で始まった。特に婦人方の韓国のチマチョゴリ姿が印象に残った。

私は第1分科会に出席した。日韓両国技術士調査団の視察報告と韓国側の具体的提案等が報告された。凶們江流域は、北挑戦、中国、ロシアにまたがる一大三角地帯で、スライド、OHPによる説明と、中山輝也北陸支部長座長、許墳、李康鎬通訳で、4時間続けられた。

特に「豆満江流域開発計画と東北亞細亞電力系統連繫」の尹甲求氏の発表が深い感銘を受けた。

北朝鮮の電力は、水力が85%、火力が15%のため、電圧、サイクルが不安定で、既存の発電所は古く、改善しないと、原子力発電は不可能である。特に東西ドイツの統一と電力事情の事例をあげ説明された。両ドイツは先ず電力の相互交流が一年前にあり統一が実現したという。南北朝鮮の統一は電力の交流を先ず始める必要があると熱っぽい発言があった。将来は韓国、北朝鮮、中国東西区、ロシア、日本を結ぶ環日本海電力網の必要を力説された。南北朝鮮の民族の悲願の強さを感じることが出来た。

翌15日は、荒神谷遺跡、出雲神社、出雲ドーム、島根ワイナリー、おろちループ橋を経て、広島駅で解散となった。

第27回は、韓国忠清南道、扶餘で開催される予定である。

試験委員会

◇平成8年度技術士第一次試験状況報告

日 時 : 平成8年10月13日 (日曜日) 10:00~16:00

試験場 : 東和大学 (福岡市南区筑紫丘)

監督員 : 支部長外22名

	申込者数	受験者数	午 前	午 後	受験率
共通学科 受験者	名 82	名 40	名 40	名 39	午前 48.8% 午後 47.6
専門科目のみ	532	385		385	72.2
計	614	425	40	424	69.1

総務委員会

◇平成8年度支部中間会計監査

日 時 : 平成8年10月19日 (土曜日) 10:00~16:00

場 所 : 博多第一ホテル

出席者 : 支部長外7名

議 題 : (1)平成8年度中間会計監査
(2)その他

事業委員会

◇技術士能力育成講座(口述試験対策)

1. 日 時 : 平成8年11月16日 (土曜日) 10:00~17:00

2. 会 場 : 福岡商工会議所 505号 605号室
受講者 : 55名 講師 : 32名

3. 講座内容 (カリキュラム)

(1)午前の部: 全技術部門共通基本事項の解説 (集中講義)

口述試験の方法及び試問事項についての対策指導、口述試験の体験談、質疑応答

(2)午後の部: 部門別個人指導 (個人別面談)

受講者と同じ専門分野の講師による模擬口述試験、と結果に基づく個人別指導

研修会関係部会報告

◇第一部会技術研修会(平成8年度第1回研修会)

山谷 三郎 (第一部会長 福岡 機械)

平成8年9月28日 (土) 午後1時30分より博多第一ホテル2階会議室において、本年度第一回技術研修会を、機械・電気電子・化学・農業部門技術士他18名の参加者を得て開催しました。

最初の講演テーマと講師は、『最近の機械加工における世界の情勢』と題して、北九州在住の機械部門技術士佐藤淳一先生で、その要旨は、工作精度の変化と高度化、高硬度難削材の高速切削を可能とする切削工具材種の進歩に伴う工作機械の剛性化と、主軸及びその送り軸を含む移動方式の高速化革新技術、及び新研削砥石と研削技術・切削油剤と周辺治具工具装置、ソフトシステム駆動方式等、国内は勿論広く海外の図書や文献を含む技術の紹介でした。一例をあげれば、空気軸受・磁気軸受・リニヤーモータ移動方式等による加工能率の飛躍的向上でした。

続いて『福岡市地下鉄の電気システム概要について』の題で、福岡市交通局勤務の電気電子部門技術士の中村一先生による講演で、概要是福岡市地下鉄建設に関して電気配電配線構成システムの安全対策や交通停止の発生を防止するリニヤーモータを伴う電気システム・通信システム・変電システム・自動運転システム等であり、更に今後の地下鉄計画についても判り易く説明して頂きました。両先生の有意義な講演終了後、会場をホテル地下の宴会場に移し、和やかな雰囲気の下で今後の研修会のあり方等反省を含んだ懇親会を持ちました。今回の研修会開催には幹事各位の絶大なお骨折りと事務局のご協力に感謝し、参加頂いた諸先生に厚く御礼申し上げます。

◇第一部会技術研修会(三井造船大分事業所見学会等)

山谷 三郎 (第一部会長 福岡 機械)

平成8年11月7日(木)、本年度部会行事計画の一環として、大分市三井造船㈱事業所での研修見学会を開催しました。参加者は、水上支部長を始め機械・電気電子・農業関係技術士等を含め19名でした。午後1時原井前支部長の出迎え受け、大分駅前に集合、三井造船仕立ての大型バスに乗車しての工場見学となりました。当事業所は昭和55年4月にオープンしたもので、海岸地帯の広大な造成地に171万m²の敷地と、ゴルフ場付の長大な工場スペースを有し、主として鉄構工場・機械工場等から構成されています。工場では、先ず研修室にて大野総務課長より工場概要の説明とビデオによる生産設備と巨大構造物製品の数々を見せて頂き、続いて鉄骨加工・溶接作業施行中の鉄構工場と、岸壁に接する外側周辺地帯の浮ドック等の鉄構造物、大径パイプ組立部材、完成品置場の見学となりました。大型走行クレーンの下での溶接は、ロボット自動装置等による自動・半自動、及び手動溶接をガスアーク・電気・プラズマ溶接、及び切断作業とを組合せて実施されておりました。工場内のヒヤリハット・危険予知等の安全運動と5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)運動は、良好に統一展開され管理されているように拝見されました。説明によれば、やはり業界のコスト競争が厳しく、より一層のコストダウンを迫られているようです。長大吊橋構造や橋桁構造物等をコンピュータシステム制御による工程生産管理の実施で合理化を図っておられ、それら構造物の高精度接合組付けを可能にしていました。

午後3時頃見学を終え、続いて大型バスで佐賀関町へと向かい、関崎海星館灯台にて、急流豊後水道を隔てて四国端の海峡を眺め、関サバを試食賞味して、午後6時頃大分駅に到着、当日帰途者と翌日の日吉原カントリークラブでのゴルフ組とに別れました。翌日8日はやや寒い曇天で参加者全員元気にゴルフ会を楽しみました。今回の計画は、野見山先生に負うところが大きく、また幹事先生方の一方ならぬお世話に感謝すると共に、参加諸先生に厚く御礼申し上げます。



◇第一部会技術研修会(技術研修セミナー)

-地震と防災対策を修める-

久保田 信一(第2部会幹事 福岡 建設・農業)

第2部会の発足時に会員へのアンケートを実施した結果から取り入れ、他部会員の参加希望が出るので途中からは他部会合同の形で例年2月に開催していた技術研修講演会が、本年度は10月11日に挙行されました。来年秋予定全国大会の準備委員会における財務委員長担当の部会長帆足先生が企画立案されたものであり、建設省九州地方建設局と各地方自治体の後援に各種協会の協賛を仰いだもと、技術士会会員以外にも広く呼びかけた受講申込み者が当日飛び込みを含めて5百名余にも達し、用意してあった3百人用会場室が4百名近い参加者で埋まるような超満員となりました。この中には当会員が大量140人も含まれており、世間へ広く資格をPRしたい所へ技術士会会友のニーズが存在するものに把握できたことを特筆されて、思わぬ副産物が獲られた結果となりました。

阪神・淡路地震から1年半を経た時期において「大震災とその対応」と題した肥田木修先生の講演は、都市部における自然災害の恐怖を人々しく伝えて貰えるものであって市民生活の混乱が詳細に理解でき、復旧の大変さと共に関係諸氏の想像外のご苦労の程が偲ばれました。また、

「大震災と道路橋耐震設計改定の動向」と題した岩崎敏男先生の講演は、社会資本整備の重要さを改めて認識させられるものであって甚大な被害の社会的悪影響に驚嘆させられ、耐震設計改善の確立のために多くのグループでの検討作業が進められている現実を知らされて大仕事の実感が湧き出るものでした。加えて趣旨を転換した「政局を読む」の石橋憲司先生の講演では春先依頼の演題なのに衆議院解散直後という絶妙のタイミングとなつたが、組閣を終えた現時点から思い出せば選挙結果が講演内容どおりになっており、聴衆を笑わせながらの長けた話に政治記者経験の重さが認められました。

講演会に引き続いては懇談会へ移り、技術士会員以外の方達を囲んだ和やかな名刺交換や、交わす酌で喉を潤しながら格別に美味しい料理をつまんでの盛会な懇親会合となったものです。注文外の鉄板焼きもサービスにて出され、技術士会員のみとは異なる雰囲気に思われました。懇談会準備の待ち時間を利用して会場ロビーへ直前に企画された質問会では、相次ぐ質問へもポンポン出てくる講師の応答に「さすが本物(失礼をお許し願います)は違うものだ」と感激を覚えた次第です。

会員以外を含めた初の試みでしたが、今後の技術研修会のあり方に指針を与えるものとなり、全国大会の準備も含めて大成功に評価されます。講師の方々へ改めて謝意を表すると共に、多大に御足労なさった帆足先生をはじめ、参加者募集の準備や当日の会場運営にご協力下さった会員諸氏へ、そして受講申込み受付け等々にご尽力頂いた古賀事務局長殿に深く感謝申し上げて報告と致します。

◇第二部会技術研修会(平成8年度第1回研修会)

北原 徳雄(第三部会長 北九州 化学)

平成8年10月19日(土)、14:00~17:00、博多第一ホテルで熱心な出席者6名の参加を得て開催した。講師の宮田守次氏(金属)は、ウクライナ共和国での国際電熱学会への出発を間近に控えご多忙中にも拘らず、部会のために講演をして頂き感謝致しています。講演の概要は、

演題:『熱電変換素子とその応用について』

熱電変換と言うのは、熱電半導体を加熱し直接熱を電気に換える「熱電発電」と熱電半導体に電流を流して冷却する「熱電冷却」「電子凍結」、及び電流を反転して発熱と冷却の両効果を利用する「電子冷熱」の3種類がある。応用面で熱電発電の例は、野戦用電源、ボイジャー2号などの原子炉熱電発電がある。また熱電冷却の例は、赤外線センサー、精密機械の冷却制御用、或いは、フロンガス代替の冷却装置等に利用している。熱電変換素子の課題としては、熱電変換効率のパロメーターである性能指数を向上させることと実用温度への適用等である。

Bi、Te、Ge等多金属の焼結体を基材に熱電変換素子が作られているが、更に工夫して性能指数の向上を目指し研究が進められている。

今回の新エネルギーの講演は最先端の技術として、また次世代技術として大変有益であった。技術士としては積極的に技術情報を獲得する意欲が望ましく、今後共もっと大勢の出席を期待します。

◇第四部会技術研修会(福岡市下水道資源センター見学会)

船越 龍徳(福岡 水道)

平成8年10月23日(水) 14:00~17:00 第四部会による技術研修見学会が、福岡下水道資源センターを中心に10名の参加により行なわれました。

まず西部(中田)埋立場を訪れ、青木所長から福岡市のゴミ処理の流れの説明を受けました。年間ゴミ発生量が 918,000 t/年 (2,500 t/日) その内 1,700 t/日 が可燃物で、残り 800 t/日 が西部、東部で埋め立てられています。以下、埋立地の概要を示します。

埋立面積 : 180,000 m² 埋立容量 : 2,380,000 t

埋立期間 : 平成8年度から20年間 事業費 : 160億円

特徴

- ・埋立地の段階施行を行ない(4工区5年単位)シートの劣化防止、初期投資の抑制
- ・シートを破らない施工法採用(保護砂 t = 500)
- ・福岡市方式である準好気性式採用
- ・監視棟でモニタリング、24時間ビデオで埋め立て状況を記録

次ぎに西部(中田)埋立場からの浸出液を処理する福岡市西部汚水処理場を塩見係員の説明を受け駆け足で見学しました。概要を次ぎに述べます。

処理能力 中田1系: 500 m³/日 その他: 600 m³/日 × 3系

放流水質 BOD : 20 mg/l T-N : 10 mg/l

放流水質は BOD= 5 mg/l 以下であり、非常にきれいに処理されていました。

最後に今日のメインである福岡市下水道資源センターを訪れ、吉村係長から資源センター設立の目的から事業内容までの説明を受け汚泥コンポスト工場の施設見学を行ないました。設立の目的は下水道事業により発生する汚泥等下水道資源の有効利用を推進するためです。汚泥のコンポスト化は、今後増え続ける汚泥の処理方式として建設資材としての有効利用と並んで有望であり、推進を図ることが必要だと思われます。しかし、販売が思うように伸びず施設規模 30 t/日に対し、実績は 10 t/日~20 t/日 と低い稼働率が続いているようです。将来は日本国内のリサイクルだけでなく、国内に輸入された資源は、消費された後は地球規模でのリサイクルを考え産出国に形を変えて還元するシステムの構築が必要だと言う思いを痛感しました。最後に、見学会の段取り及び当日の説明、案内をして頂いた方々に深く感謝致します。



◇第五部会技術研修会(南薩地域畑地かんがい視察旅行)

岡部 九州生(第五部会長 福岡 農業)

研修内容：鹿児島県南薩地域における畑地かんがいの実施状況について

研修場所：鹿児島県指宿市・知覧町・山川町・開聞町

研修期日：平成8年11月14日(木)～15日(金)

参加者：11名(福岡2名、宮崎1名、鹿児島8名)

行程：1日目(14日)

JR西鹿児島駅前集合 13:20、出発 13:30→知覧町武家屋敷→知覧特攻平和会館→
南薩畑地かんがい現地視察→宿舎(グリーンピア指宿)→懇親会 20:30 終了

2日目(15日)

宿舎 9:00 出発→フラワーパークかごしま(山川町) 山中園長より園内案内及び説明→

南薩土地改良区中央管理所(開聞町)南薩地区畑地かんがい事業の概要説明→昼食
→テクノマート工場現地視察→西鹿児島駅着 14:30 解散

以上の通り報告致します。



◇第六部会・他部会合同技術研修会(日本鋳鋼(株)、新日鐵化学(株)見学会)

芳賀 三千億(第六部会長 長崎 経営工学)

開催日：平成8年10月4日(金)

見学先：午前 日本鋳鋼(株)

午後 新日鐵化学(株)見学会 九州製造所

参加者：10名(経営工学4名、他部門及び事務局6名)

◎日本鋳鋼(株) 工場見学

新日本製鉄と三菱グループの共同出資による会社で、新日鐵の戸畠事業場構内に位置している。
主要製品は船舶、電力、鉄鋼プラント用品で国内屈指の大型鋳鋼品メーカーである。

池本技術部長の概要説明後、江畠、町田両先生の車に分乗し、池本氏以下3名の方々にご案内頂き、製鋼工場、整調工場、鍛造工場及び機械工場を見学した。

100屯電気炉、8,000屯プレス、超大型旋盤など、巨大な設備は見応えがあった。

◎新日鉄化学(㈱)九州製造所 工場見学

新日鉄の化工部が独立し、その後、日鉄化学と合併し今日に至っている。当製造所は日本鋼に近接し、新日鉄からの副産物（コークス炉ガス、コールタール及び高炉スラグ）を主原料とし、各種の化学製品を作っている。

製造部マネージャー仮屋氏の概要説明の後、広大な工場を車を利用して見学し、当所の自主管理活動状況を事務局の川上氏から説明して頂き、最後に藤本製造部長の挨拶があり、質疑応答の後、現地で解散した。



地区だより

◇北九州地区技術士研修会(月例会講演)

江畠 賢一(北九州地区代表幹事 応用理学)

◎9月例会

開催日：平成8年9月21日(土曜日) 14:05～16:55 於：戸畠中央公民館

参加者：24名

講演：『廃棄物処理に関する最近の技術紹介』

日鉄プラント設計㈱ 清水 清氏(北九州衛生工学)

最初に廃棄物対策の重要性を理解するために、排出と処理の現状について統計資料に基づく説明があった。本題に入って演者が関係した新日鉄方式の熱分解一貫溶融システムについてメカニズム・フロー・工事・設備の詳述があった。次いで廃棄物処理システムを評価する上で大きな要素である排ガスや飛灰の処理技術についての解説があった。最後に次世代型産業廃棄物処理技術として、脚光を浴びている代表的な技術の紹介があった。

1. 廃棄物の処理の現状

平成4年度のデータでは一般廃棄物の発生量は5,000万t/年で内最終処分量(埋め立て)は1,500万t、産業廃棄物は4億t/年で内最終処分量は0.8億tである。

最終処分場の確保難が自治体行政の負担を増やし地球環境問題を惹起している。リサイクルの推進による廃棄物発生量の抑制と発生廃棄物の減容化が課題となっている。

2. 新日鉄式廃棄物直接溶融(熱分解一貫溶融)システム

高炉技術をベースとしたシャフト炉による可燃分の熱分解ガス化と不燃分の溶融を一体化して行うシステムである。効果として、①最終処分場の極小化(埋立量：可燃分85t不燃分15tのごみを処理する場合、焼却方式44m³、焼却+灰溶融方式31m³、直接溶融方式1m³である。)②スラグ、メタル等の再資源化 ③エネルギーの有効利用等が挙げられる。

本システムは国内5ヶ所で稼動中乃至建設中である。

3. 排ガス・灰処理装置

(1) スプレーによる排ガスの冷却

目的はバグフィルターの冷却の他タキシの発生防止、及びHClの除去率アップにある。

(2) 消石灰吹込みによるHClの除去

吹込み配管の閉塞防止に関し、高反応性で閉塞の起こり難い消石灰が開発されつつある。

(3) バグフィルターによる集塵

従来は電気集塵機が用いられたが、最近はバグフィルターが一般的である。濾布の材料もガラス等に代わって、耐熱成に優れたポリエレクサルファイド系或いはポリミド系のものが用いられる。

(4) その他

排ガスの脱硝や飛灰(集塵灰)の無害化処理も必要であるが、最大の課題はタキシの除去乃至無害化である。加熱分解の他、排ガスについては活性炭吸着、飛灰については溶融処理などが考えられている。

4. 次世代型廃棄物処理技術の開発状況

直接溶融方式の他内部溶融方式、ガス化溶融方式がある。代表的なものとして三井造船、荏原、NKKの方式(いずれもガス化溶融方式)がある。

(以上、泉館昭雄氏(電気電子)の聴講メモによる要約と感想より)

◎10月例会

開催日: 平成8年10月18日(金曜日) 18:05~21:00 於: 戸畠中央公民館 出席者: 13名
講演: 『最近の機械加工』 佐藤技術士事務所 佐藤 淳一 氏(機械部門)

機械加工に於ける検討要因、精度、及び能率について資料の説明があった。CBN等の超硬素材や、高速度遠心工具の開発により切削能率が向上した。資料内容に対して45分の説明時間が短く感ぜられた。

◎11月例会

開催日: 平成8年11月16日(土曜日) 18:00~20:20 於: 戸畠中央公民館 出席者: 8名
博多での技術士口述試験準備講習会と重なり、講師に行かれた方もあるが、最近は参加者が少なかった。それだけにご出席頂いた方々のご協力が一きわ有り難かった。

講演: 『ステンレス鋼の微生物腐蝕事例』 (株)高田工業所 安西 敏雄 氏(金属部門)

微生物腐蝕(Microbiologically Influenced Corrosion: MIC)については、1年余り前に当例会で、将来の従来の腐蝕環境では考えられない事象として演者のご講演があった。今回は、学会でもこの関係の論文が増えてきている現状を踏まえ、演者が関わった3つの事例について、微生物のIdentificationの研究進展を中心に紹介があった。

孔食が中心で、腐蝕速度が約50mm/年と従来の常識に比べオーダーが1桁大きいのが特徴である。pHやイオン濃度、温度条件等に関して、通常の腐蝕環境以下で生起し通水が滞留する所に生じ易い。熱交換器等に於て冷却水側の腐蝕を心配する必要もある。

◇佐賀県技術士会技術研修会(研修見学会)

藤永 正弘(佐賀 建設)

佐賀県技術士会は、春の叙勲において「勲五等双光旭日章」を受賞されました向井治孝先生を囲んでの研修見学会及び昼食会を去る8月29日に行い、13名が参加致しました。

<佐賀空港>

平成10年の開講を目指し建設されている佐賀空港は有明海に面した干拓地であり、土質的に非常に軟弱な地盤上に建設されているのが特徴で、地盤対策としてペーパードレン工法が採用され、盛土材は脊振山系のマサを使用し、現在滑走路部分の盛土が完了した段階でした。

当日の現地説明は、佐賀空港建設事務所久富所長の計いで同所の金子課長、山下係長両氏から詳しい説明があり、軟弱地盤の処理、不同沈下の解決、周辺環境、完成後の利用計画等、技術的な活発な意見交換がなされました。また、向井先生からは今日に至った佐賀空港建設にまつわる歴史的背景やその経過など、行政面、技術面から詳しいお話を頂きました。

<成富兵庫の水利施設>

佐賀県河川開発課原田技術監（会員）の車中及び現地での説明をうけながら、枝吉樋門→佐賀江→蒲田津水門→千栗土居→城原川三千石堰 等、成富兵庫が佐賀平野に残した治水、利水施設の歴史的足跡を見学しました。

成富兵庫の視野の広さ、思考・技術のすばらしさを通し、技術士そのものの意義や佐賀県人としての立場など再認識する機会がありました。

<昼食会>

企画通り、向井先生の豊かな経験、人生哲学など話して頂きながら和気あいあいの1時間でした。最後に、この研修会でお世話になりました各所の方々や向井先生に厚く御礼申し上げます。

◇長崎県技術士会技術研修会(産業廃棄物に関する技術セミナー)

城石 高弥(長崎県代表幹事 建設)

長崎県技術士会の平成8年度事業計画の一貫として、11月に開催を予定していた技術研究セミナーを、長崎厚生年金会館に於て11月5日に開催しました。

テーマは『産業廃棄物処理の現状と課題』に致しました。

昨年度開催致しました「官公庁職員と技術士との合同セミナー」の時と同様に、今回のセミナーも官公庁52名、企業関係34名、技術士会々員75名、計161名の方が参加して頂き、盛大にセミナーを終了することが出来ました。セミナーの目的は、地方にいる技術士が、それぞれの分野で自分の技術を生かし、地域に貢献している様子を知っていただく機会をつくると共に、セミナーを通じて広く意見交換の場を設けるためです。

我国は、豊かな社会になった反面、使い捨て社会が急速に形成され、年々増大する廃棄物を適正に処理する計画が各地で行詰まり、ひいては生活機能が麻痺しかねない現状や、不法投機が歴然と行なわれている状況下にあります。今やこの問題の解決には、産・学・官一体となって取り組む必要がありますので、今回のセミナーがお役に立つものと思います。

セミナーの内容ですが、

『日本の産業廃棄物処理の現状と課題』 三菱重工㈱

奥野 敏 技術士

『世界の産業廃棄物処理の現状と課題』 ルアンビエンテ総合コンサルタント

小島 義博 技術士

『長崎県の産業廃棄物処理の現状と課題』 長崎県生活環境廃棄物対策課課長補佐 中村 保高 氏に講演して頂きました。

事例については、長崎県土木部技術情報室課長補佐 笹山 勝之氏、及び長崎県技術士会々員4名の方に発表してもらいました。



会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(連絡先:上段/勤務先:下段)
福岡	正鎮	浅利 公博	建設	811-02 福岡市東区美和台 3-7-12-202 (092)606-8575 勤務先:西鉄シーアイ・コンサルタンツ(株) (092)511-2411/Fx(092)511-2499
福岡	"	江頭 清巳	建設	815 福岡市南区長住 2-19-25 (092)551-7258
福岡	"	松本 一誠	建設	813 福岡市東区名島 4-26-9-1003 (092)672-0306
福岡	"	吉武 正致	建設	813 福岡市東区香椎浜 1-9-2-304 (092)672-1766
福岡	"	勝山 修	建設	819 福岡市西区下山門 3-22-20 アンピール姪浜Ⅱ 105 勤務先:日本工営(株)福岡支店 (092)475-7552/Fx(092)475-7089
福岡	"	井浦 敏彦	建設	815 福岡市南区皿山 3-6-29 (092)511-8844 勤務先:ダイエー・コンサルタント(株)福岡支店 (092)752-1785/Fx(092)724-7588
福岡	"	吉村 岳丸	林業	813 福岡市東区青葉 6-26-11 (092)691-9352 勤務先:明治コンサルタント(株)九州站 (092)751-7408/Fx(092)751-8480
鹿児島	"	浦島 和衛	情報工学	895 川内市西開聞町 7-25 (0996)22-2551 勤務先:浦島コンサルタント事務所 (0996)22-0479/Fx(0996)22-0479
福岡	"	土谷 重勝	建設	820 飯塚市宮町 2-9 (0948)22-7219 勤務先:(株)マエダ (092)735-0062/Fx(092)735-0064
福岡	"	上村 幸二	建設	818 筑紫野市大字原 555-15 (092)992-0835 勤務先:(株)西部技術コンサルタント (092)291-8251/Fx(092)281-4513

☆九州地方技術士センター入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(連絡先:上段/勤務先:下段)
福岡	"	大石 理	建設	810 福岡市中央区荒戸 2-2-8-405 (092)714-3667 勤務先:小牧建設(株)福岡支店 (092)713-8600/Fx(092)781-1135
宮崎	"	稻森 光洋	建設	880 宮崎市下北方町寺ヶ迫 5445-5 (0985)22-5127 勤務先:環境建設コンサルタント (0985)22-5127/Fx(0985)22-5127
福岡	"	川岸 国晏	建設	838 福岡県朝倉郡三輪町依井 851 (0946)22-6150 勤務先:(株)エスケイエンジニアリング (092)925-4880/Fx(092)925-4870
福岡	"	富永 英治	建設	819-03 福岡市西区泉 1-1-1 (092)807-5143 勤務先:(株)錢高組九州支店 (092)291-3939/Fx(092)281-9832
福岡	"	佐藤 隆	農業	816 福岡市博多区諸岡 2-7-3 第2 砧ビル390 (092)584-0185 勤務先:アジア航測(株) (092)474-9475/Fx(092)474-7321

<連絡先と勤務先が同じ場合、連絡先のみ記入>

☆会員連絡先(住所)および勤務先変更

(氏名)	(部門)	(変更)	(勤務先・連絡先)
藤永 正弘	建設	勤務先	840 佐賀市神園 6丁目1425-2 新九州測量設計(株)
床西 俊彦	建設	勤務先	812 福岡市博多区店屋町 3-23 (株)アートコンサルタント (092)281-0051
江口 英治	水道	勤務先	815 福岡市南区大楠 2-8-13 (株)アジア建設コンサルタント (092)521-5931/Fx(092)523-4844
小池 勝也	電気電子	連絡先	814-01 福岡市城南区樋井川 4-5-24 (092)863-4985
安部 義美	建設	連絡先	800 北九州市門司区原ヶ丘 5-27-106 (093)371-8345
平嶋 孝	建設	勤務先	862 熊本市戸島町 3294-3 (株)大揮環境計画事務所 (096)365-1745/Fx(096)356-6533
島田 潔	建設	勤務先	816 大野城市下大利 2-19-18 公月測量設計(株) (092)592-7120

☆会員連絡先（住所）および勤務先変更（つづき）

(氏名)	(部門)	(変更)	(勤務先・連絡先)	
西田 淳	水道	勤務先	895 川内市平佐町 2416	新和技術コンサルタント(株) ☎(0996)25-3155/Fx(0996)23-5333
安部 治良	建設	連絡先	801 北九州市門司区鳴竹 2丁目-1-19	☎(093)321-1808
		勤務先	日本国有鉄道清算事業団九州支社	☎(093)332-0135
竹岡 伸一	建設	連絡先	857 佐世保市須田尾町 366-3	☎(0956)31-8303
		勤務先	扇精光(株)佐世保事業所 ☎(0956)26-1711/Fx(0956)34-0533	
渡邊 繁文	建設	連絡先	840 佐賀市光 2-4-9	☎(0952)22-8235
		勤務先	昭和地下工業(株)佐賀営業部 ☎(0952)33-4956/Fx(0952)31-1890	
秦野 徹	機械	連絡先	824-08 福岡県京都郡勝山町黒田字小松579-8	☎(093032)-4442
箱島 斎	建設	連絡先	815 福岡市南区鶴田 4-38-9	☎(092)565-7115
浜 光春	建設	勤務先	879-71 大分県大野郡三重町大字赤嶺 902 (株)佐藤設計コンサルタント ☎(0974)22-6432/Fx(0974)22-6148	
毛利 一美	衛生工学	勤務先	810 福岡市中央区白金 1-17-8 FS 21 ビル (株)福岡エネルギーサービス ☎(092)526-0631/Fx(092)526-1640	
吉田 保	建設	勤務先	812 福岡市博多区東比恵 3-28-10 (株)東亜コンサルタント ☎(092)415-1313/Fx(092)431-5331	

—受付順、敬称略—

<会員ニュース終わり>

◇会誌“技術士”最近の主要目次

☆10月号

- ・卷頭言 コンサルタントたる技術士
—国際化への課題— / 松永 一成
- ・ミニ特集
USAにおける下水高度処理施設調査報告
/ 玉井 義弘
- ・ISO 14000に関する欧州動向 / 笹 徹
- ・「化学兵器禁止条約対応指導員」として
技術士の活躍 / 椎名 博

☆11月号

- ・卷頭言 技術士の社会的地位の確立を / 亀田 泰武
- ・研修のページ
技術士と特許 / 河島 昭守
- ・我国の石灰石鉱業 / 松本 孝雄
- リチウム / 間瀬 一夫

。 ☆12月号

- ・卷頭言 産業廃棄物を巡つ / 鈴木 清
- ・研修のページ
阪神淡路大震災における仮設トイレの実態と課題 / 松並 壮
- ・産業用ロボットの構造・性能の変遷 / 鵜沢 高吉

★投稿募集★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願いします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。(20字×10行=200字詰め原稿用紙2~3枚程度<用紙は事務局備付け>)を目安に、支部事務局宛にご送付下さい。

編集後記

横浜での第23回技術士全国大会は成功裏に終わりました。いよいよ来年は私達の番で、なにやかやと忙しくなりそうです。

九州場所が終わり博多の街からお相撲さんの姿が消えると年末を感じさせます。今年も投稿をして頂いた皆さんにはお世話になりました。いろいろ至らぬ点が有ったかと思います。お詫び方々、来年も宜しくお願ひします

発行：(社)日本技術士会・九州支部

九州地方技術士センター

〒810 福岡市中央区大名1丁目

12-61 新天ビル 402

☎ (092)771-9534

FAX(092)731-8274